

ほけんだより 1月号

マイコプラズマ肺炎について



最近ニュースなどで良く耳にしているマイコプラズマ肺炎ですが、昔はオリンピックイヤーに流行していました。しかし、最近はその傾向はなくなりました。

今シーズンは例年になくマイコプラズマ肺炎が流行しています。以前はマイコプラズマ肺炎というと、比較的元気があり、抗生物質も効くためあまり重症になることはない肺炎でした。しかし、近年では、抗生物質の効かないマイコプラズマ肺炎もあり、入院するケースもあるようです。

〔感染経路〕 接触と飛沫感染の両方で感染します。

〔症状〕 ひき始めは発熱、全身倦怠、頭痛などの症状があらわれます。

この病気の特徴的な症状である咳は3～5日後より始まる
ことが多く、初めは乾いた咳ですが、徐々にひどくなり、
解熱後も長期にわたって(3～4週間)持続します。



〔治療〕 抗生物質の内服

抗生物質の飲み薬で効かない場合には、入院して点滴をしたりします。

〔合併症〕 中耳炎、無菌性髄膜炎、脳炎、肝炎、膵炎、溶血性貧血、心筋炎
関節炎、ギラン・バレー症候群など

冬場の衣服を暖かく着るポイント

下着を着る

動きやすいよう、暑過ぎないよう、半袖シャツが適当です。

体のサイズに合った服を着る

あまりプカプカの洋服では熱が逃げやすくなります。また小さめの洋服ではおなかが出て、体が冷えて寒さを感じ、動きも窮屈になります。できれば腰までを覆うデザインの衣服だとより暖かくなります。袖口があまり短いと手首から熱が逃げて寒さを感じるのので、適当なサイズの洋服を着せてあげましょう。

襟や袖口のボタン(ファスナー)をきちんと留める。

襟や袖口が開いていると、首や手首の周りから熱が
逃げていきます。首や手首を温かくすると防寒効果が高まります

